

! = 各種項目、? = 条件命令

## TurboHAMLOG入力と Q S L カード印刷出力一覧表 1

### 入力画面 [A]

※ ! = 各種項目、? = 条件命令

条件命令の間には、空白を入れても入れなくてもかまいません。

### コールサイン(Call)

### Q S L カード印刷出力コマンド

#### 入力例

JO1NDG

JO1NDG/1

JO1NDG/QRP/1

JO1NDG/S2005/1

JO1NDG/BY1

BT1/JO1NDG

初期値10バイト

最適18バイト

**!cp** 半角J-呼称/移動地 (JG1MOU/KH6)

**!CP** 全角J-呼称/移動地 (JG1MOU/JD1)

**!PT** 移動地 (北海道なら **8** または **JA8**)

**!C1** JARL枠1文字目 (全角文字。以下同じ)

**!C2** JARL枠2文字目

**!C3** JARL枠3文字目

**!C4** JARL枠4文字目

**!C5** JARL枠5文字目

**!C6** JARL枠6文字目

**!C7** 7文字目 (**!C1** ~ **!C9** まで同様)

**!C0** 10文字目

**!c1** JARL枠1文字目 (半角文字。**!c1**~**!c0**まで同じ)

※ 他の変数や文字を混ぜなければ、全角のゼロの場合に/が上書きされます。 ("!C1 !C2"のように続けなければ)

※ **QSL**の項目の1文字目に **M** と入力されており、Remarks 1・2のどちらかに **@JG1MOU** のように入力されていれば、QSLマネージャー経由と判断し、そのコールサインを印字します。QSLマネージャーのコールサインは、@に続けて3文字以上の英数混在の半角大文字である必要があります。

**? Potbl** 移動局であれば、この次の一行を実行します。

**? Club**

相手がクラブ局であれば (サフィックスが**Y**か**Z** で始まる3文字であれば)、この次の一行を実行します。(ただし、国内局のみ)

**DX : ボックス****Q S L カード印刷出力コマンド**

DX局の時に使用。エンティティをセット出来る。

**? DXST**

相手がDX局であれば（入力ウィンドウの**DX**にチェックして保存したデータ）、この次の1行を実行します。

※ DX局でコールサインに/がある場合の取扱いについて（重要です） ※

※DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするに**チェックが入っている**場合

例えば、 AA1BB/W6 8Q7/AA1BB AA1BB/6 AA1BB

これらは別々のコールサインとして扱われます。

従って、AA1BB/2と入力すると、1 s t -QSOとなります。

国内QSO専門の方は、**DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックする**にはチェックが入ったままで問題ないでしょう。

[/を含むコールサインでJPEG画像にヒットさせる場合は、AA1BB 2.jpgのように/をスペースにしてファイルを保存してください。](#)

[/を含むコールサインでコールテキストにヒットさせる場合も、AA1BB 2.txtのように/をスペースにしてファイルを保存してください。](#)

※DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするに**チェックが入っていない**場合（推奨）

例えば、 AA1BB/W6 8Q7/AA1BB AA1BB/6 AA1BB

[チェックが入っていない場合は、これらはすべてAA1BBというコールサインでヒットして、5回目のQSOとなります。](#)

この場合のコールサインの判断は、次のようにプログラムしています。

【例1】 AA1BB/KH6 … AA1BBがコールサイン

【例2】 8Q7/AA1BB/QRP … AA1BBがコールサイン

【例3】 AA1BB/BY1AA … AA1BBがコールサイン

【例4】 AA1BB/BY1AAA … BY1AAAがコールサイン

[つまり、最初に現れる/の左側と右側の文字列の長さを比較し、長いほうの文字列をコールサインとして検索しています。（※CTY.DAT）](#)

ただし、長さが同じ場合は左側をコールサインとして検索します。

[従って、例4のような場合で、実はAA1BBがコールサインだとしたら、右側を意図的に短くするしかありません。（※エンティティの判断）](#)

ここのチェックの有無は、コールサインによる検索（部分文字列検索を除く。）すべてに影響します。

**変換開始**ボタンをクリックすると、実行します。変換終了後は、Turbo HAMLOG/Winが終了します。

今までの **HAMLOG.HDB**は、**HAMLOG.\$DB**にリネームされて残っています。

少しでもDXをされる方は、**DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするのチェックを外しておく**ことをお勧めいたします。

[もちろん、DX局とのQSOでは、コールサイン欄の上にあるDXのチェックボックスをチェックしてください。](#)

交信年月日(D)	Q S Lカード印刷出力コマンド
yy/mm/ddの順で入力	<b>!DY</b> 4桁の年
※通常は、「自動入力」	<b>!Dy</b> 2桁の年
	<b>!DM</b> 月 (01~12)
	<b>!Dm</b> 月 (1~12)
	<b>!DJ</b> 月 (Jan~Dec)
	<b>!DD</b> 日 (01~31)
	<b>!Dd</b> 日 (1~31)
	<b>!DT</b> 年月日 (yy/mm/dd)

交信時刻(T)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Timeは、時間 2 桁 : 分 2 桁と <b>J:JST</b> か <b>U:UTC</b> 。	<b>!Th</b> 時 (0~23)
※通常は、「自動入力」	<b>!TH</b> 時 (00~23)
	<b>!Tm</b> 分 (0~59)
	<b>!TM</b> 分 (00~59)

※年月日時分は、JSTで入力されてあっても、入力ウィンドウのDXにチェックが入力されてある交信相手は、自動的にUTCに変換されて印刷します。

**? UTC** UTCであれば、この次の一行を実行します。

His (H)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Hisは、相手局のRS(T)レポート。	<b>!HR</b> 相手局のRSTレポート
初期値 3 バイト	<b>!hR</b> 相手局RSTのRのみ (了解度)
最大 1 2	<b>!hS</b> 相手局RSTのSのみ (信号強度)
	<b>!hT</b> 相手局RSTのTのみ (トーン)

My (M)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Myは、自局の貰ったRS(T)レポート。	<b>!MR</b> 自局のRSTレポート
初期値 3 バイト	
最大 1 2	

FreQ (F)	Q S Lカード印刷出力コマンド
FreQは、交信周波数。 初期値 7 バイト 最大 1 6	<p><b>!FR</b>    ピリオド前、または空白前までの周波数文字列 (430.210 → 430)</p> <p><b>!F7</b>    周波数を指定したバイト数出力 ( <b>!F4</b>で4バイト/<b>!F3~!F9</b>では3~9バイト出力/<b>!F0~!F2</b>では10~12バイト出力)</p> <p><b>!Fr</b>    100Hz単位や10Hz単位で入力してあっても、kHz単位までを出力 (7.01234 → 7.012)</p> <p><b>!Bt</b>    送信波長 (7MHz帯では40m、50MHzでは6m)    ※波長はADIF仕様のとおり</p> <p><b>!Br</b>    スプリット運用時の受信波長 (144/430では70cm、430/1200では23cm)</p> <p><b>? Freq n</b></p> <p>n は周波数帯を示す数値です。各周波数帯ごとの数値は、次のとおりです。</p> <p>1.9MHz=1   3.5MHz=2   7MHz=3   10MHz=4   14MHz=5  18MHz=6   21MHz=7   24MHz=8   28MHz=9   50MHz=10  144MHz=11   430MHz=12   1200MHz=13   2400MHz=14  5600MHz=15   SATELLITE=17   その他又は認識できない=16</p> <p>【例】 ? Freq 3</p> <p style="padding-left: 40px;">#Print 100, 300, "40m Band"</p>

Mode(M)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Modeは、電波型式。 初期値 4 バイト 最大 1 6	<p><b>!MD</b>    電波型式</p>

Code(e)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Codeは、JCC/JCG/行政区/町村/DXコードを最大6バイト入力する事が出来る。  Fキーで、検索可。 市: [F5]、群: [F6]、 区: [F7]、町: [F8]、 村: [F9]	<p><b>!JC</b>    相手のJCC/Gコード</p> <p><b>!Jc</b>    相手のJCC/Gコード (町村の場合はJCGコードに変換される)</p>

G・L(G)	Q S Lカード印刷出力コマンド
グリッドロケーター : 6バイト入力	<p><b>!GL</b>    相手のグリッドロケーター</p>

QSL(L)	QSLカード印刷出力コマンド
QSL情報	? Rcv QSL受領済みであれば、この次の一行を実行します。
J: JARL経由で交換	? QslM QSLマネージャー経由 (QSL欄の1文字目が M) であれば、この次の一行を実行します。
D: ダイレクトで交換	
N: NoQSL	? Qsl1 "n" QSL欄の1文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
M: QSLマネージャー経由で交換	? Qsl2 "n" QSL欄の2文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
E: mQSL経由で交換	? Qsl3 "n" QSL欄の3文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
: 3バイト入力	
1文字目: 方法	【例】 ? Qsl3 "E"
2文字目: 発行	#Print 130,800,"電子QSL受領済みです。"
3文字目: 受領	

CQ: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
自局のCQ及びCQへの応答で交信が始まった。	? CQde 呼ばれた場合、または自局のCQで始まったQSOであれば (入力ウィンドウのCQにチェックをいれて保存したデータ)、この次の1行を実行します。

1: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
	? Check1 入力ウィンドウの1や2にチェックが入っていれば、この次の1行を実行します。 Check1 と Check2が使用できます。

2: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
	? Check2 ? Check1と同じ

相手の名前(N)	QSLカード印刷出力コマンド
交信相手の名前。	!NA 相手の名前
初期値 1 2バイト	? Name
最大 6 4	氏名が入力されていれば、この次の一行を実行します。

相手の名前QTH(Q)	QSLカード印刷出力コマンド
交信相手の発信場所。	!QT 相手のQTH
初期値 2 8バイト	
最大 1 2 8	

Remarks 1	Q S Lカード印刷出力コマンド
-----------	------------------

備考として使用。  
初期値 5 4 バイト  
最大 2 5 4

### !r1

Remarks 1 の文字列全部。但し、文字列右側の空白はカットします。

**!R1** Remarks 1 に記入した文字列のうち、%と%で括った文字列。%文字列%が存在しなければ、何も印字しません。

### !Rp

Remarks 1 に記入した%と%で括った文字列と、Remarks 2 に記入した%と%で括った文字列を連結します。

例えば、Remarks 1 に%文字列%と、Remarks 2 に% A B C %と入力してあれば、**文字列 A B C**と印字します。

【例】 ? Space! "!Rp" ; 空白でなければ

```
#PrintA 50,800,10,"!Rp移動"
```

### !R1,n1,n2

Remarks 1 の **n1**バイト目から **n2**バイト目の文字列。**n1**はゼロから数えます。数字は二桁で指定し、空白は入れないで下さい。

【例】 ・ ・ Remarks 1 を 6 バイト目から 2 2 バイト印字します。

```
#Print 50,850 "!R1,06,22"
```

### !R1\$A

Remarks 1 に記入した文字列のうち、\$A=**文字列** \$の文字列。**\$A~\$Z**が使えます。

【例】 ・ ・ Remarks 1 に \$R=TS-520\$ のように記載があれば、TS-520と印刷する。

```
? Space! "!R1$R"
```

```
#Print 100,900 "使用リグは!R1$Rです"
```

### !R2\$Z

Remarks 2 に記入した文字列のうち、\$Z=文字列\$の文字列。Remarks 1 と同様です。

### ? RmStr "文字列"

指定した文字列が、現在読み込んであるQSOデータ中のRemarks 1 か Remarks 2 に存在すれば、この次の一行を実行します。

文字列中には、**!**で始まる変数が使えます。

【例】 #Mov \$\$F="Turbo"

```
? RmStr "!$$F HAMLOG"
```

```
#Print 100, 500, "Turbo HAMLOGをお使いですね"
```

**Remarks 2** **Q S Lカード印刷出力コマンド**

備考として使用。  
初期値 5 4 バイト  
最大 2 5 4

**!r2** Remarks 2 (!r1と同じ)  
**!R2** Remarks 2 (!R1と同じ)  
**!R2,n1,n2**  
Remarks 2 の **n1**バイト目から **n2**バイト目までの文字列

**Rig/Ant設定画面**

No	Freq	Rig	Power	Ant	High	Rmks	Location	Etc
1	430	IC-9700	50	GP	24			
2	144	IC-9700	50	GP	24			
3	1200	IC-9700	10	GP	24			
4	7	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
5	14	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
6	18	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
7	21	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
8	24	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
9	28	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
10	50	IC-7300	50	HB9CV:4ere	23			
11	144	IC-9700	50	12X2	14			
12	430	IC-9700	50	SS4160(40X2X2)	22			
13	1200	IC-9700	10	27X2	11			

**コメント(S)** **Q S Lカード印刷出力コマンド : !RG ~ !Et は、Rig/Ant設定の内容**

Freq  
Rig **!RG** 自局の R I G (Rig欄)  
Power **!Pw** R I Gの終段入力、または空中線電力等 (Power欄)  
Ant **!AN** 自局のアンテナ (Ant欄)  
High **!Hi** アンテナの地上高 (High欄)  
Rmks **!Rm** バンド毎のコメント (Rmks欄)  
Location **!Lc** 自局の運用地など (Location欄)  
Etc **!Et** バンド毎のコメント・その他 (Etc欄)  
  
**!Co** 印字確認時のコメント

<b>その他(E)</b>	<b>QSLカード印刷出力コマンド</b>
---------------	-----------------------

QSL# **!NO** レコードナンバーです。(QSOデータの通し番号です。)  
**!NO+2000**のように記述すると、実際のレコードナンバーより 2,000多い数字を印字します。  
**!NO-1500**のように記述すると、実際のレコードナンバーよりも1,500少ない数字を印字します。  
**!No : !NO**と同じですが、数字3桁ごとにカンマが入ります。  
なお、本ソフトではQSL番号というものは管理できません。(QSL番号用の項目がありません。)

使用中のTurboHAMLOG **!Vr** Turbo HAMLOG/Winのバージョン  
**!Nw** 今日の年月日 【例】 08/Aug/2018  
**!NW** 今日の年月日 【例】 2018/09/01  
**!nW** 今日の年月日 【例】 2018-12-09

#MOV命令 (メモリー #) **!\$\$A**  
[#Mov命令で代入した文字列や数値を記憶しています。](#)  
**\$\$A~\$\$T**が文字列用で、**\$\$U~\$\$Z**が数値用として使えます。

<b>QSOデータに特定の文字列(D)</b>
-------------------------

**? Data1 "文字列"**  
現在読み込んであるQSOデータ中に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。  
**Data1 ~ Data14**が指定できます。  
**Data1**はコールサイン、**Data2**は日付、**Data3**は時間、**Data4**はHisRTS、**Data5**はMyRTS、**Data6**はFreq、**Data7**はMode、**Data8**はCode、**Data9**はG/L、**Data10**はQSL、**Data11**は氏名、**Data12**はQTH、**Data13**はRemarks1、**Data14**はRemarks 2 (以上、メインウィンドウの並びのとおり) 文字列中には、**!**で始まる変数が使えます。  
【例】 **? Data7 "SSTV"**  
#Print 150, 400, " F B な画像を有難うございます。 "

**? nData13 "文字列1,文字列2,文字列3,文字列4,文字列5"**  
カンマで区切った文字列のいずれかが、現在読み込んであるQSOデータ中に存在すれば、この次の一行を実行します。  
文字列1、文字列2、文字列3. . . の順で探します。  
カンマで区切った文字列は、CSVファイルの1行と同じフォーマットです。  
それ以外は、**Data1 ~ Data14**と同様です。  
【例】 **? nData7 "FT4,FT8,JT65,JT9"**  
#Print 150, 250, "dB"



## 変数に特定の文字列

#MOV命令 (メモリー #) ? \$\$A "文字列"

文字列変数に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。  
\$\$A ~ \$\$Tが使えます。

## 特定の文字列 (その他)

? Space "空白文字列"

文字列が空白であれば、この次の1行を実行します。この例では、Rig/Ant設定でアンテナの地上高が入力されていれば、アンテナを印字します。文字列中には、!で始まる変数が使えます。

【例】 ? Space! "!Hi"

```
#Print 80,800,"!HimH !AN"
```

UserLIST関係

? User

相手のコールサインがHAMLOGユーザーリストに存在し、かつ、HAMLOGユーザーリストを開いていれば、この次の1行を実行します。

? End

条件命令の終わりを指定します。これにより ? 条件命令 と ? Endの間に、複数の命令を記載できます。

ただし、? 条件命令 と ? End の途中でネストして ? 条件命令 を記載することはできません。

次のように? 条件命令 を続けて記載すれば、AND条件となりますのでOKです。

【例】 ? Freq 3 ; 7MHzで かつ

? RmStr "湯-" ; 温泉移動局だったら

```
#Print 10, 40, "!NAさん、湯加減はいかがでした?"
```

```
#Print 10, 90, "また!FRMHzでお会いしましょう!"
```

? End ; ?RmStrの終わり

条件命令に !を付ければ意味が逆になります。( ? Endを除く) 例えば、 ? UTC! では、JSTであれば次の1行を実行します。

条件命令の行を続けて記述すると、AND条件で次の行を実行します。例えば、次の例ではDX局でNAME欄が入力してあれば、"FB DX Dr 名前"と印字します。

? DXST

? Space! "!NA"

```
#Print 100,500, "FB DX Dr !NA"
```